

## 日本の海岸線を歩く会 歩行計画書

報告者：友松知宏

## 1. 計画の概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	山陽
計画区間詳細	スタート地点：倉敷／水島大橋西詰 ゴール地点：西大寺／永安寺橋西詰
実施期間	平成28年11月14日(月)～17日(木)
概算歩行距離	80.4Km

## 2. メンバー表（メンバーの詳細情報は別紙に示すが、ホームページ等には載せない）

No.	役割・分担	氏名	ワゲル期	備考(ワゲルとの関係等)
1	L・記録	友松知宏	8期	
2				
3				

## 3. 歩行計画

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	11月14日	水島大橋西詰～児島	26.8Km	友松知宏	
2	11月15日	児島～後閑小学校前	24.5Km	友松知宏	
3	11月16日	観光(直島)	—	友松知宏	
4	11月17日	後閑小学校前～永安橋西詰	29.1Km	友松知宏	
5					

## 4. 歩行ルート概要(地図や概念図、歩行のポイント等)

他に計画書や資料があれば最後に添付して下さい。

11月14日(月)

09:30 JR新倉敷駅集合＝タクシー＝水島大橋西詰～水島～下津井～久須美鼻～児島＝タクシー＝  
下津井／下津井亭宿泊(魚料理)

11月15日(火)

下津井亭＝タクシー＝児島～田ノ口～和田～JR宇野駅～後閑小学校＝バス＝宇野駅～宇野港＝  
フェリー＝直島宮浦港／みなとや旅館宿(外食)

＊バスの運行ダイヤによっては、宇野駅からバスで後閑へ行き、そこから宇野港まで歩く

11月16日(水)

レンタカーまたはスクーターで直島観光／みなとや旅館宿(魚料理)

11月17日(木)

みなとや旅館～宮浦港＝フェリー＝宇野港＝バス～後閑小学校～山田港～小串～児島湾大橋～  
リバーサイドマリーナ～永安橋西詰(今回の目的地)～JR西大寺駅解散(17:00予定)

山陽ブロック 8 歩行概念図



## 直島観光概念図



## 5、予算

交通費		<米子組>	<東京組>	
JR運賃	米子（東京）—新倉敷	4,530	16,300	
	西大寺—米子（東京）	5,180	16,300	
バス代		1,000	1,000	
タクシー	10,000			頭数均等割り
レンタカー	8,000			頭数均等割り
宿泊費				
	下津井亭(2食、飲み物込み)	12,000	12,000	
	みなとや旅館（朝食付き）	5,400	5,400	
	みなとや旅館（2食付き、飲物込み）	10,000	10,000	
食費				
	昼食、飲み物代、	10,000	10,000	
雑費				
	地中美術館他入館料	3,000	3,000	
	<u>18,000</u>			頭数均等割り
	<u>合計</u>	<u>51,110</u>	<u>74,000</u>	

## 6、観光（直島）

直島は宇野港よりフェリーで20分。車で回ったら20分ほどで1周できる小さな島であるが、瀬戸内国際芸術祭の主会場で、シーズンには大勢の客が訪れる。島全体がアートで埋まっているが、地中美術館そして古民家とアートが一体化した家プロジェクトが主なアートの場となっている。

## 〔地中美術館〕

地中美術館は「自然と人間を考える場所」として、2004年に設立されました。瀬戸内の美しい景観を損なわないよう建物の大半が地下に埋設され、館内には、クロード・モネ、ジェームズ・タレル、ウォルター・デ・マリアの作品が安藤忠雄設計の建物に恒久設置されています。地下でありながら自然光が降り注ぎ、一日を通して、また四季を通して作品や空間の表情が刻々と変わります。アーティストと建築家とが互いに構想をぶつけ合いながらつくり上げたこの美術館は、建物全体が巨大なサイトスペシフィック・ワークといえるでしょう。



ウォルター デ・マリア作品



モネの池

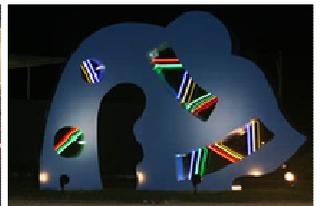


モネ「水蓮」

(ベネッセアート直島HPより転載)

## 〔家プロジェクト〕

家プロジェクトは直島・本村地区において展開するアートプロジェクトです。「角屋」(1998年)に始まったこのプロジェクトは、現在、「角屋」「南寺」「きんざ」「護王神社」「石橋」「基会所」「はいしゃ」の7軒が公開されています。点在していた空き家などを改修し、人が住んでいた頃の時間と記憶を織り込みながら、空間そのものをアーティストが作品化しています。地域に点在する作品は、現在も生活が営まれている本村を散策しながら鑑賞することになります。その過程では、場所の持つ時間の重なりやそこに暮らす人々の営みを感じることでしょう。



(2016国際芸術祭HPより転載)

## 〔李禹煥美術館 (リウファンビジゅつかん)〕

現在ヨーロッパを中心に活動している国際的評価の高いアーティスト・李禹煥と建築家・安藤忠雄のコラボレーションによる美術館です。半地下構造となる建物のなかには、70年代から現在に到るまでの絵画・彫刻が展示されており、建築と響きあうことで、空間に静謐さとダイナミズムを感じさせます。

海と山に囲まれた谷間に位置するこの美術館は、自然と建物と作品が呼応しながら、モノにあふれる社会の中で、我々の原点を見つめ、静かに思索する時間を与えてくれます

(李禹煥美術館HPより転載)